

其先蓋
周之胄

其先蓋周之胄

後漢の中平二年（一八五）建てられたがこの時代建碑を禁じられ、間もなく、いつの頃か地中に埋没してこの碑を見ることを得なかったが、明の萬曆年間（一五七三～一六一九）に至って再び地上に現れた。後漢には数多の碑があるが、乙瑛・禮器とこの碑を同等に評価している。徳川時代の隷書も、殆んど曹全碑のみが学ばれ、稀に佐久間象山が西狭頌を学んだのが例外位で一般には隷書といえは曹全碑と思わせるほどであったという。碑の文章も完全な状態で発見されて、学習するに最適な碑ともいえるので、今月よりこの碑を学ぶこととします。

其

横が四本、上三本は水平で直線、四本目が曲線で長く八分を伸びやかに書いて下さい。

先

この碑も左払い、筆を突き止める。少々太くなりました。最終画は、真下そして方向を右下へ八分を入れる。方向を変えるとき、一旦筆を放して八分線を書いてもいいですね。

蓋

この文字はやや右上がりに見えますが水平に見えるように書き、最終画、点をうち横画の八分を伸びやかに書き入れる。

周

一画目、筆を逆に跳ねかえすような独特な用筆で曹全らしいアクセントにもなっている。

之

この文字は、何度も出てきます。三画目の左下への線が下がりすぎないように書き右下への八分を長くしっかりと書くようにしましょう。

胄

横画は水平に、月の一画目は短かく右の縦画は長く書かれています。転折は一旦筆を離して一画一画切って書くようにすると隷書らしくなります。

微臣属
書東觀

微臣属書東觀

孔子廟堂碑は唐の太宗皇帝が学芸振興のために長安に孔子廟を再建した時に建てた碑です。碑はすでに失われ、古い拓本が一本だけが国に残されています。
虞世南晩年の書で、品格が高く、均斉のとれた点画はあまり角ばらずすっきりとしていて、穏やかで温かみのある書です。欧陽詢の九成宮醴泉銘とともに楷書の極則と称されています。この一年楽しく書きましょう。

微

「攴」で字幅を出して下さい。

臣

縦画と横画の接する部分に注意して書いて下さい。

属

「尸」と「禹」との位置に注意して下さい。少し「禹」を右寄せに。

書

横画に気をつけて下さい。

東

左右のはらいの中で右はらいをよく見て書いて下さい。

觀

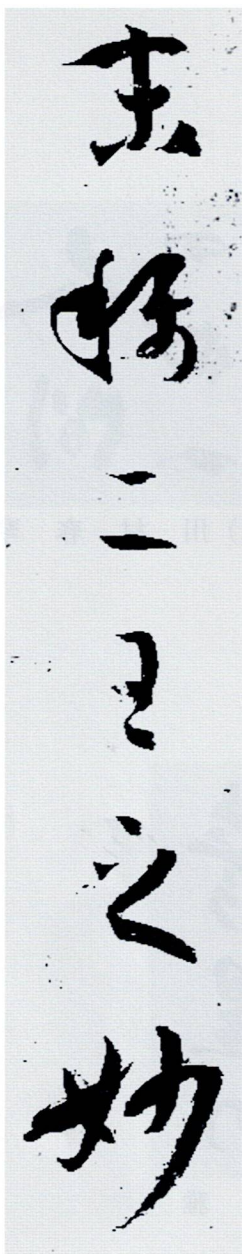
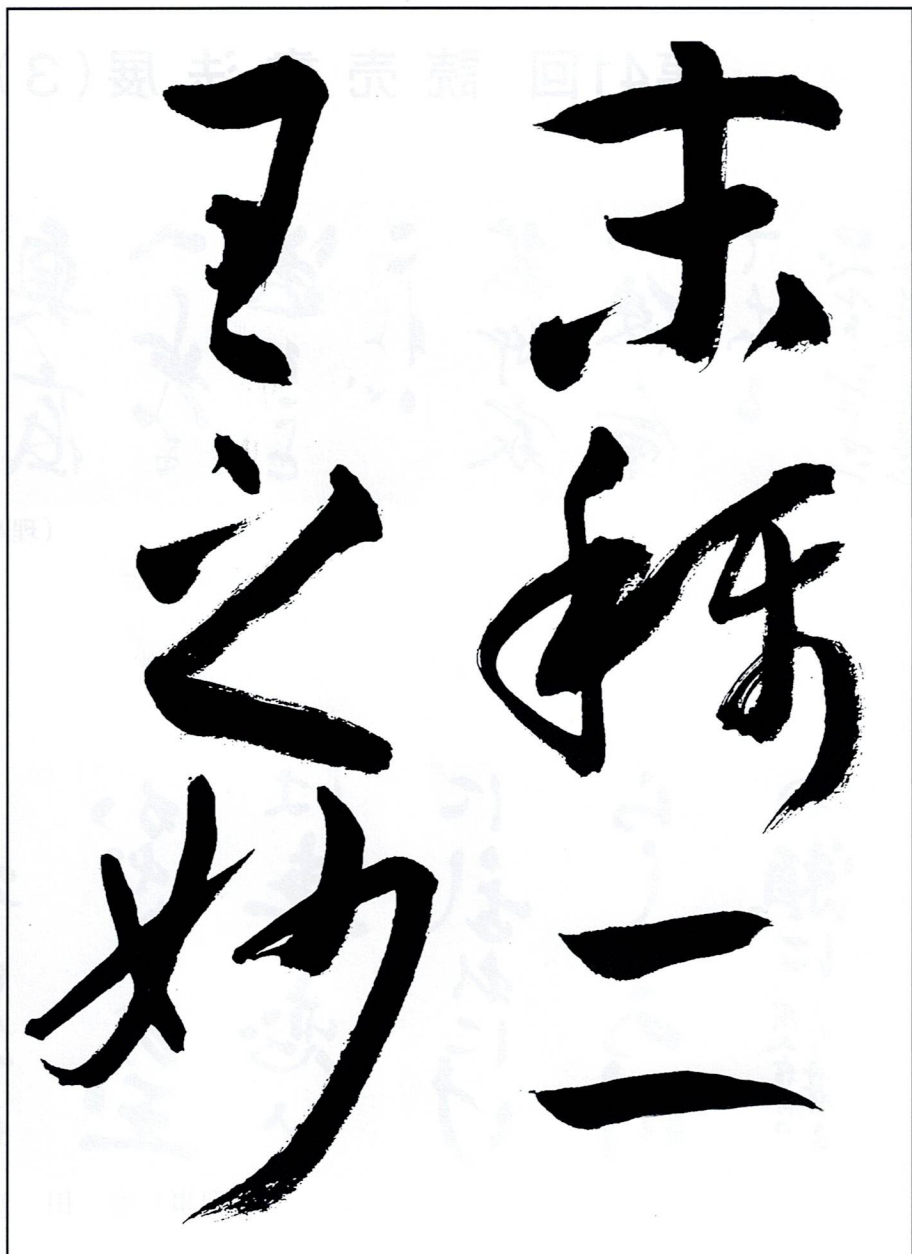
大きくなりがちです。偏と旁のバランスに注意して下さい。



あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。本年は米芾を勉強します。茗溪詩卷をはじめ尺牘などを扱います。

米芾は北宋時代に生きた、蘇東坡、黄山谷と共に北宋三大家に称せられる名家であることはご存知だと思います。茗溪詩卷は元祐三年（一一八八）八月八日の記述が卷末にあることから、蜀素帖が書かれる一ヶ月前に書かれたことがわかります。穏やかで繊細な蜀素帖に対し、雄渾な書き振りと言えます。

米芾の作品群の良さはなんと言っても肉筆であることでしょう。王羲之の書が臨摸本か刻石本しか無いのに対し、王羲之の書を猛勉強した米芾の筆跡は、その理解に多大なヒントを秘めていると言って良いでしょう。米芾を通し王羲之の書の考察をすることも今年のテーマしたいと思います。



令和八年度は、基本に戻って孫過庭の書譜を勉強していきます。王羲之の十七帖と並ぶ草書の代表作です。去年の董其昌の行草体とはまた違った草書ですが、頑張って書いて行きましょう。

末

一画目二画目、向かい合うように連続し縦画へ。四画目・五画目の点は左右対称ではありません。

稱

稱の異体字です。偏と旁の間広くとつて下さい。

二

始筆、力を抜いて、左から右へ流れるように。

王

最終画は少し筆を離してから書きます。

之

二画目と三画目の間広くとり、四画目、少し下に筆をずらして押さえ、右下にぬきます。

妙

堂々と書いて下さい。扁と旁の下部の間が広いです。最終画左下にシャープに。私のは少し弱い線になりました。